



とやま虹の会
20周年に思いをよせて



介護老人保健施設 レインボー



特別養護老人ホーム しらいわ苑



水橋生活サポートセンター かけばし



小規模ケア施設 市江やすらぎの郷



小規模ケア施設 中村町めぐりの郷

とやま虹の会設立に尽力された方々



山崎乙吉さん
初代しらいわ苑施設長

とやま虹の会の設立時に目指していた施設

かつてお年寄りが障害や病気をし、病院にかかり、その後、生活していくには厳しい時代でした。これではこの先、年を重ねることが不安で「水橋で安心して過ごせるように」したいという地域住民の方の願いと、とやま虹の会が掲げる理念が一致し、「寝たきりを作らない」「地域福祉の拠点」という目的で社会福祉法人とやま虹の会を設立し、地域の皆さんと共に施設づくりを行って来ました。

設立時の思い出

レインボーを地域の力で作るという熱意にとても感動したことを覚えています。設立まで時間がない中での寄付金であったり、みなさんの取り組む姿勢に本当に感謝しています。

「総合的で複合的なサービス事業」を発揮する

総合的なサービスということとは、それだけ地域の皆さんの願いを身近に聞き入れやすいということです。施設を利用するお年寄りのお世話だけでなく、利用されない困ったお年寄りも安心して地域で過ごせるように、そしてそういったお年寄りをつくらない、こういったことを法人全体で取り組んでいただきたい。世の中で起こっている介護難民やお年寄りの孤独死という問題がある中、今こそ虹の会の理念と特性を活かすべきだと思います。

20年たった今の思いと活動

介護をする専門家としての役割を果たしてほしい。職員一人ひとりの取り組みしだい、虹の会が良くも悪くもなるので、思いを一つにケアに取り組みんでいただきたいです。



これからの虹の会へ

入所施設が在宅サービスのどちらかではなく、後方に重介護の方を支える入所施設があるからこそ、最後の砦になり、在宅サービスが安心して運営できる。入所施設も在宅サービスも一体となって、時には法人の枠を超えて、子供、障がい者、高齢者が安心して水橋で暮らしていける福祉のネットワークづくりに大きな期待が寄せられています。

設立した当初のみんなの思いを、継承し、一層光り輝いてほしいです。自分の思いが形となったものなので、毎日気になってしょうがないです（笑）



小西乃里子さん
法人事務局長
レインボー事務局長
しらいわ苑施設長を歴任

虹の会を作るきっかけ

富山医療生協の組合員さんが、入院から退院までの期間が、医療保険制度で制限されたため、病院から退院後に受け入れて生活リハビリをしてくれる施設が欲しいという、切実な要望があり、「老人保健施設レインボー」を建設することになりました。当時富山市では、社会福祉法人での老人保健施設の設立は初めてで珍しく、生活保護の方の受け入れや社会福祉法人の減免制度をいち早く取り入れることができました。レインボー開所後には、1年かけて満床にするように富山市から言われていたのですが、3か月で満床になりました。当時たくさんの方の待機者がいて、なんとかして受け入れてあげたいという一心で、富山県・市へ何度も足を運び話し合いを行いました。



具体的な取り組み

設立資金を集めることや地権者の方々に土地を譲っていただくための価格の交渉等々、社会福祉法人設立等の書類作りに毎日追われていました。資金の1億円はすべて寄付金で、約3か月間で善意の一点と多くの方の協力のもと集めることが出来ました。書類作りは手探り状態で、当時パソコンが普及していなかったため、鉛筆やワープロなどで書類を作っていました。徹夜になることも珍しくありませんでした。

苦労したこと 嬉しかったこと

苦労したことは、老健開設の職員を集めることが本当に大変でした。小さなつてをたどって、実際に自宅や学校に連日訪問して、入社して頂いた職員がほとんどです。当時必死で採用した職員が現在、虹の会で要職について苦労しながら仕事をしていることに嬉しさや感謝の気持ちでいっぱいです。

今思えば、緊張の毎日で事務局長兼看護婦をしていたので、苦労や嬉しさを感じる余裕すらなかったように思えます。

職員へ伝えたいこと

例えば受け入れに困難なことがあった場合、そこで施設待機者にするのではなく、介護されているご家族の状況等をお聞きして、小まめに相談にのってあげ、違う施設を紹介してあげるなど、虹の会と直接関わりが持てなくなったとしても、利用者さんやご家族さんの立場になって考えてほしいです。その方たちは色々な困難を抱えて虹の会に頼ってきているのですから、親身になってあげてほしいのです。

虹の会の総合的な介護サービス事業を発揮して、他事業所との連携を強めてほしいと思います。

これからの虹の会へ

ボランティアさんが気軽に参加できる体制を整えて下さい。ボランティアをしたいという方はたくさんいます。ボランティアさんに助けられたということは今までたくさん経験してきました。その方たちと一緒に虹の会をより良い法人にしていってほしいと思います。



芝木正幸さん
しらいわ苑事務局長
レインボー副施設長を歴任

しらいわ苑開設時

しらいわ苑は在宅介護が困難になられた方が利用されます。利用される方が、いつでも安心して毎日過ごせ「わが家」だと思ってもらえるように、様々な工夫をしました。建物はすべて平屋建てで、のどかな田園風景を見ながらゆったり過ごせる広い空間を確保しました。また、土に親しむリハビリ庭園をはじめ、生きがいづくりの趣味や作業の工房の場となり、加えて地域の方にも来てもらい風通しのよい環境にできればと、地域交流スペースを配置しました。

当時、大阪から来た備品業者の方が、全国の特養を回ってきたが、ここが一番立派と言われたのがうれしかったです。

食器はプラスチックではなく陶器のものを使うようにしたり、多床室でもプライバシーを確保できるように障子で仕切り、家庭的な暖かさの中で過ごしてもらうことを意識しました。

家族会もいち早く作りました。みんなで相談しながら進め、一方的ではない、共に創る福祉をしらいわ苑はめざしていました。



地域交流スペース



家族会



陶器を使った食事



リハビリ庭園

平成12年 措置制度から介護保険制度へ 大きな変革

介護保険の導入で利用される方が自由に施設を選べるようになり、申し込み窓口がこれまでの市役所から施設自体に変わり、しらいわ苑の入所待機者が一気に増えました。

事務にとっては、請求の仕方・会計などの内容が変わり、移行作業でしばらく混乱しました。

利用者負担の在り方も大きく変わりました。入所者の収入に応じた利用料から、改訂後は誰でも1割負担になり、社会保障の後退を残念に思いました。

しかし、利用者さんが受けられるサービスについては、すでにしらいわ苑には「多年にわたり社会に貢献し経験豊富な高齢者を敬愛する」という老人福祉の精神が、施設運営の基本理念にありましたので、制度が変更になっても介護者が入所者さんに接する気持ちは一貫していました。

虹の会の法人設立とレインボー建設

虹の会の法人設立と、県内の老健でただ一つみんなの寄付で作ったレインボー建設は、短期間に書類提出を求められることばかりで、全力疾走の様毎日でした。昼間は医療生協本部事務局の仕事をし、それが終わってから、法人設立と施設建設の仕事をするという兼務の状況が続きましたが、いつも「願わなければ叶わない」と自分に言い聞かせ、どんな困難があっても絶対に間に合わせて、法人設立と施設建設を実現したいとの強い気持ちを持ち続けることができました。

水橋の地に福祉の拠点を作りたいという、みんなの思いが一つになり、わずか6ヶ月で法人設立とそれに続いてレインボー建設ができたのだと思います。

当時はあまりに忙しい毎日でしたので、レインボーが完成して落ち着いたなら、映画の終盤でどかなお正月風景が映る「男はつらいよ」を映画館でゆっくり見ることを楽しみにしていました。(笑)



集団ケアから個別ケアへ 介護サービスが変わりつつある今

集団ケアと個別ケアにはそれぞれ長所、短所はあると思います。なかなか正解を出しづらいと思いますが、意見をぶつけ合い、型にはめず、試行錯誤しながら、その時々に応じたものを選ぶ臨機応変な考えを持ってほしいです。

利用者さん一人ひとりの「いのち・くらし・生きがい」を常に意識しながら、日々の関わりを持ってもらいたいです。どれひとつが欠けても、今日はちょっとよくない日だったなど利用者さんは感じると思っています。集団ケアであっても個別ケアであっても、利用者さんに人生の主人公として「ああ、今日一日生きていて良かったなあ！」と思ってもらうためには、気持ちを受け止め、わかってあげ、利用者さんへの温かな関わり的一点で突破するしかないと思います。

これからの虹の会へ

ここが他とは違うという、とやま虹の会のブランドを見ずえてほしいと思います。その理念と成果を虹の会だより、ホームページ、納涼祭等の各種行事や家族会などを通じて発信し、地域の方々に虹の会は頑張っていると伝える。また、すべてオープンにして見てもらい、苦情も言ってもらったらいいですね。問題点をキャッチボールしながら解決して行く、それによって地域の方、家族、職員が一体となった介護をしていければいいと思います。

10年後20年後も虹の会を利用した方々から「ここは何か雰囲気良くて安心できる！」と思ってもらえるような施設であって欲しいです。もっともっと発展して、色々な事業展開をしていけたらいいと思います。虹の会の施設を、他の施設が見習いたい、というふうになって欲しいです。

20年の歴史とともに 歩いてこられた ボランティアさん



和泉 与市さん

レインボーで床屋さん
しらいわ苑デイサービスの
ボランティア

始めたきっかけ

体調を崩して入院していて、退院後、温度が管理がされているレインボーでボランティアすることにしました。その後、床屋さんのボランティアを手伝うようになりました。当時は素人同然でしたが、今も当時の利用者さんから床屋さんと言われることがあり嬉しく思いました。現在は自分が得意な物作りなどのボランティアを行っています。

これからの虹の会へ

常に疑問をもって、現状に満足せず、今後も地域のみなさんに貢献できるように頑張っていってほしいです。



手がけた納涼祭の舞台



平野 和嘉子さん

レインボーで
つくりませんか(手芸)
のボランティア

始めたきっかけ

家族からレインボーでボランティアを勧められて、マジックから始めました。そして自分の趣味である絵を生かして、現在ではカレンダー作りなどを行っています。カレンダー作りをしていて、利用者さんが喜んでくださり、又、笑顔に会えることが私のパワーの源になっています。今年、8月に100歳の誕生日を迎えられる利用者さんに「頭と体を使わないと錆びるよ!」と、いつも言って下さり、人生の先輩に実感のこもったありがたい言葉が聞け、嬉しく思います。

これからの虹の会へ

職員さんには明るい雰囲気づくりにいつも協力して頂いています。私がボランティアを継続して活動できるのは、職員の皆さんがボランティアを快く受け入れ、理解してくださっているので感謝しています。



出版された折り紙・塗り絵・ちぎり絵を作る本「つくりませんか」の作品